

令和5年度施策評価結果

長与町では、令和3年度から令和7年度の5年間を計画期間とする、『長与町第10次総合計画』を定め、まちの将来像に「人・緑・つなぎ はぐくむ ながよ ～幸福度日本一のまちをつくる～」を掲げ、その実現に向けて、「子育て」「教育」「健康づくり」を施策の柱に据え、「遊び心」を大切にしながら具体的な施策・事業を推進しています。

令和4年度はこの第10次総合計画の2年目に当たり、計画に謳われた6つの基本目標を具現化するための42の施策及び160の数値目標の進捗状況に関する評価を行いました。

1. 評価の実施について

(1) 評価対象事業

第10次総合計画に定める42の施策、130の具体的な取組、406の主な取組及び160の数値目標

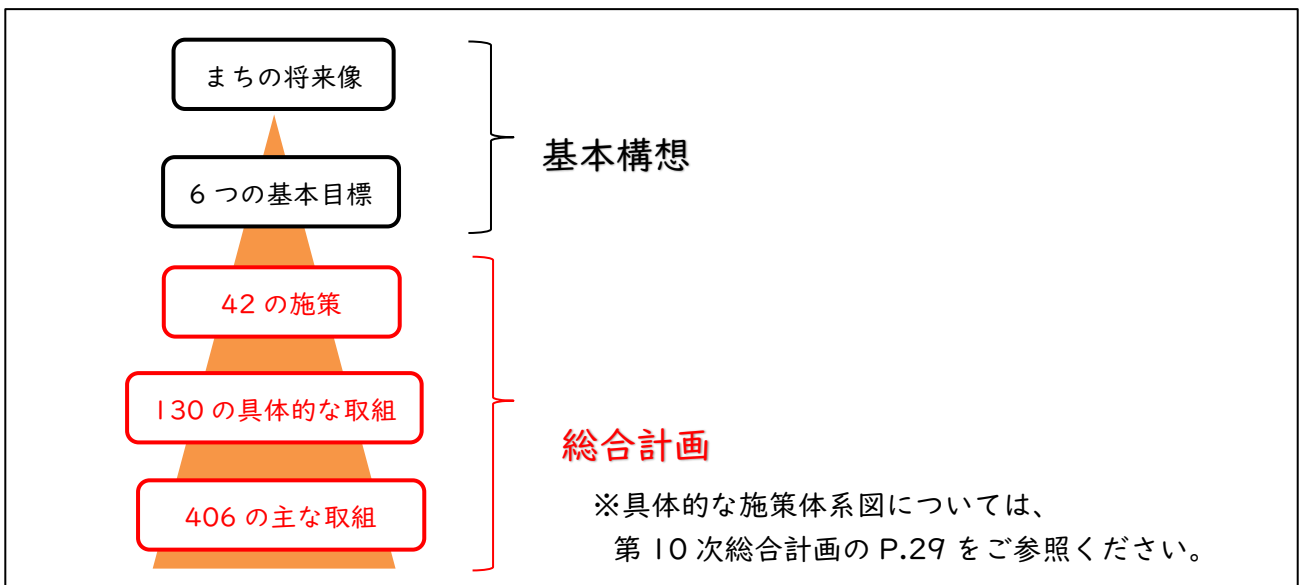
・基本目標ごとの評価対象事業数一覧

目標番号	基本目標	施策番号	施策	具体的な取組数	主な取組数	数値目標数
1	協働による持続可能な社会	1	多様な協働の環境づくり	3	7	2
		2	地区コミュニティ活動の推進	2	5	3
		3	自治会活動の推進	2	5	3
		4	経営感覚のある行政運営	4	12	6
		5	効率的な財政運営	3	5	2
2	心を育む教育と文化	6	乳幼児教育・保育の充実	2	7	3
		7	学校教育の充実	8	23	8
		8	青少年の健全育成	3	7	4
		9	生涯学習の推進	4	10	5
		10	生涯スポーツの推進	4	11	3
		11	文化・芸術の振興	3	9	5
		12	国際色豊かなまちづくりの推進	2	4	1
		13	人権の尊重	2	8	2
		14	平和意識の高揚	1	4	2
		15	男女共同参画社会の実現	4	12	3
3	創造性と活力ある産業	16	農業の振興	4	15	9
		17	林業の振興	2	3	2
		18	水産業の振興	3	8	2
		19	商業の振興	3	12	5
4	魅力あるまちと新しいひとの流れ	20	工業の振興	2	5	3
		21	観光・シティプロモーションの振興	3	14	3
		22	移住・定住促進及び関係人口の拡大	2	6	6
5	安全・快適・便利な暮らし	23	雇用環境の充実	2	10	3
		24	市街地の整備	5	18	5
		25	上水道の整備	4	6	2
		26	下水道の整備	4	6	1
		27	道路の整備	2	6	3
		28	地域公共交通の充実	3	7	4
		29	地域情報化の推進	3	13	4
		30	消防・防災体制の強化	4	17	5
		31	交通事故防止対策の推進	2	9	3
		32	安全な生活環境づくり	3	9	3
6	ぬくもりのある健康と福祉のまち	33	健康づくりの推進	5	21	11
		34	感染症対策の充実	3	4	2
		35	医療体制の充実	2	7	2
		36	結婚・妊娠・出産・子育て支援の充実	5	24	9
		37	高齢者福祉の充実	1	7	5
		38	地域福祉の充実	4	14	2
		39	障がい者福祉の充実	3	10	5
		40	社会保障制度の充実と原爆被爆者対策	3	8	2
		41	快適で持続可能な生活環境づくり	3	13	3
		42	ごみ・し尿の適正な処理	3	5	4
合計				130	406	160

(2) 評価の方法

<① 総合計画の構成について>

本町の総合計画は、基本構想に定める10年後の町の将来像と、将来像の実現に向けた「6つの基本目標」を達成する手段として、「42の施策」「130の具体的な取組」「406の主な取組」で階層的に構成されています。



基本構想と総合計画の構成イメージ

「施策」「具体的な取組」「主な取組」については、総合計画においてそれぞれ以下のように記載されています。

「施策」の番号と名称
 施策が紐づく「基本目標」の番号と名称

基本目標 4 魅力あるまちと新しいひとの流れ

21 観光・シティプロモーションの振興

SDGs 観光分野

所管 産業振興課、政策企画課、秘書広報課、土木管理課

主な数値目標	現状値 (R1)	目標値 (R7)
主要イベント来客数	47,037人	50,000人

基本目標 1

計画の目標 施策を進めるための「具体的な取組」

大村湾等の地域資源を活かし、交流拡大とイメージアップ、地域活性化を図ります。

- 本町は、大村湾をはじめ、琴ノ尾岳、堂崎の2か所の自然公園、歴史・文化資源など豊富な地域資源を有しており、交流人口拡大に向けた効果的な活用が期待されています。
- 今後は、農業・漁業体験等の推進や各種イベント開催、広域的な観光プロモーションなど多様なプログラムの導入を図るとともに、土産物・特産品開発に取り組みます。また、各種メディアを活用したシティプロモーションにより、町のイメージアップを図ります。
- 特に近年、観光資源としての大村湾が関心を浴びており、県や近隣市町とも連携しながら大村湾を活かした交流促進・地域活性化に努めます。

観光・シティプロモーションの振興

地域資源を活かした多様な交流促進

情報発信・シティプロモーションの推進

大村湾を活かしたまちづくりの推進

具体的な取組

1 地域資源を活かした多様な交流促進

数値目標	現状値 (R1)	目標値 (R7)
特産品・農水産物イベントの回数	5回	6回
体験ペーロン参加者数	3,206人	3,744人

交流促進による地場産業等の活性化を図るため、農業体験や漁業体験など体験型観光の推進のほか、地域資源を活用した土産物・特産品開発及び販売体制の充実を図ります。また、観光ルート・ネットワーク構築と合わせた案内板やサインなどの観光基盤整備や観光プロモーションの推進を図ります。さらに、来るべき新幹線開業に向け、新たな交流拡大と地域経済活性化を目指し、関係機関と連携した取組を推進します。

主な取組

- 農業体験・漁業体験等の推進
- 特産品・農水産物のイベントの開催・PR
- 土産物・特産品の開発と販売体制の充実
- 観光ルート・ネットワークの構築
- 観光案内板や誘導サイン等の観光基盤整備
- 県や近隣市町と連携した観光プロモーション等の推進
- 新幹線開業に向けた関係機関と連携した取組の推進

実際に各課が行う「主な取組」

2 情報発信・シティプロモーションの推進

町のイメージアップや認知度の向上、ひいては地場産業等の活性化を図るため、観光マップ等の整備による情報発信の強化に努めるとともに、多様な情報媒体を活用したシティプロモーションを推進します。

主な取組

- 観光マップ等の整備による観光情報発信の強化
- 各種メディアを活用したシティプロモーションの推進

3 大村湾を活かしたまちづくりの推進

大村湾の特性を活かした海洋スポーツを推進するほか、県や近隣市町と連携した各種の取組・イベント開催等により大村湾を活かしたまちづくりを進めます。

主な取組

- シーサイドストリートを活用したシーサイドマルシェ等のイベント開催
- 県、大村湾流域市町と連携した広域的な取組の推進
- 大村湾の景観を活かした自転車関連事業（長崎県サイクルーズ等）の推進
- 県等と連携した特定複合観光施設（IR）の開業に向けた取組と情報発信
- 大村湾を活かした海洋スポーツの推進（再掲）

基本目標 2

基本目標 4

基本目標 5

基本目標 6

現状と課題

町内主要イベント来客数は近年増加傾向。更なる増に向けて、近隣市町との連携が求められます。

主要イベント来客数の推移

年次	来客数
H27	37,451
H28	41,163
H29	45,235
H30	39,122
R1	27,037

資料) 産業振興課

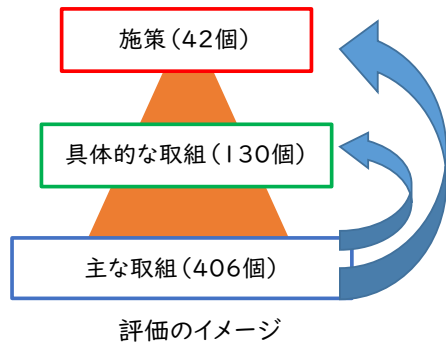
- 町内における主要イベント来客数については、近年増加傾向が見られます。天候などによる中止のほか、新型コロナウイルスによるイベントの自粛など、外的要因もありますが、更なるイベント来客数の増加、及び町への人の流れの創出を図る必要があります。
- また、新幹線の開業や大村湾の観光資源としての活用などに際し、県や近隣市町との連携を行いながら、新たな観光機会の創出・活用に向けた取組が求められます。

<②「施策」「具体的な取組」及び「主な取組」の評価>

各課が実際に取り組んでいる「主な取組」について、「A:計画以上の進捗がある」「B:計画通りの進捗がある」「C:計画から遅れている」の3段階で評価作業を行いました。

3段階の評価基準
A 計画以上の進捗がある(概ね10%以上の進展)
B 計画通りの進捗がある(概ね±10%程度)
C 計画から遅れている(概ね10%以上の遅れ)

また、「施策」及び「具体的な取組」の評価については、下記のようにそれぞれに紐づく「主な取組」の評価結果を積み上げて決定しました。



- ①「主な取組」の評価結果を
A=3点、B=2点、C=1点と点数化する。
- ②「施策」「具体的な取組」ごとに、
それぞれに紐づく「主な取組」の評価の平均点を算出
- ③平均点に応じて、下記の基準で「施策」「具体的な取組」の
評価を決定する

2.50~3.00点 = A
1.50~2.49点 = B
1.00~1.49点 = C

※令和4年度評価における評価の変更点について

前年度まではABCの3段階ではなく、ABCDの4段階で評価を行っていた。
しかし、4段階のうちBの「概ね」Cの「やや」といった表現が、評価の基準として不明瞭であるといった課題が見出されていたため、令和4年度評価より3段階評価への変更を行った。

〈前回/令和3年度までの評価基準〉
A 計画通り
B 概ね計画通り
C やや遅れている
D 遅れている



〈今回からの評価基準〉
A 計画以上の進捗がある
B 計画通りの進捗がある
C 計画から遅れている

<③数値目標評価>

掲げる数値目標の進捗状況を機械的に判定することを目的に、

「S(現在値が、目標値を超えている)」

「A(現在値が、基準値を超えている)」

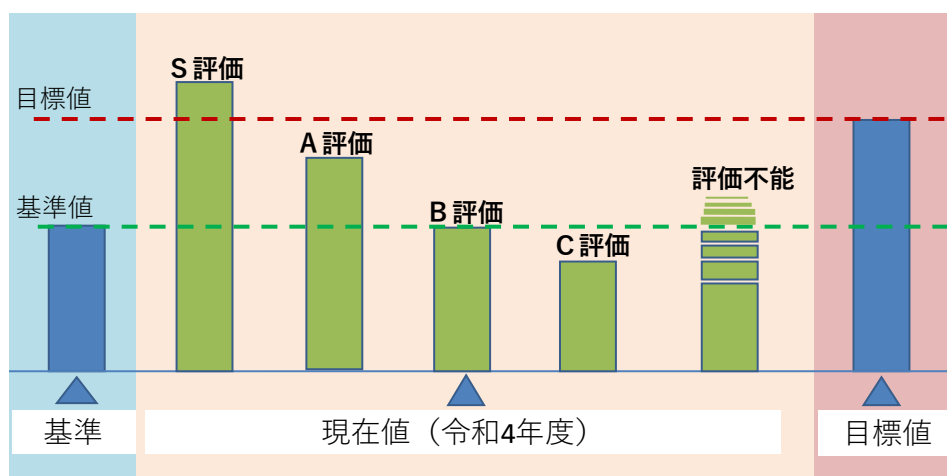
「B(現在値が、基準値と同水準である(△10%以内))」

「C(現在値が、基準値より下落している)」

「- (現在値が把握できない等の理由により評価できない)」

の5段階で評価を行いました。

なおここで言う「基準値」とは、第10次総合計画を策定する時点で進捗を管理するために根拠とした数値であり、「目標値」とは、総合計画の期間内で達成することを目的に設定した数値を言います。



(数値目標評価イメージ図)

5. 評価結果

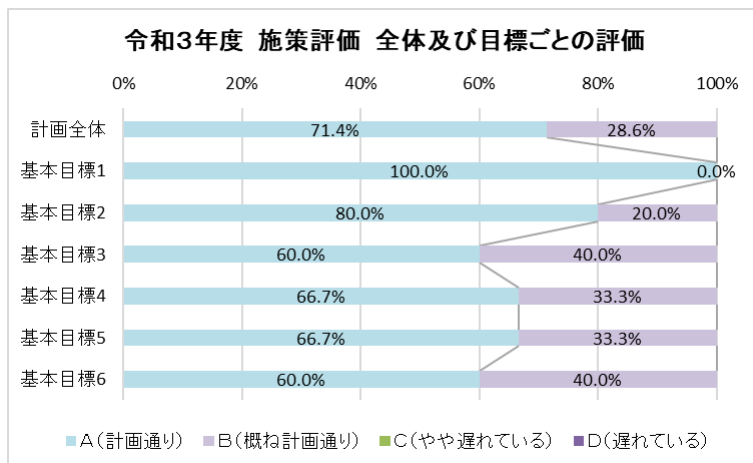
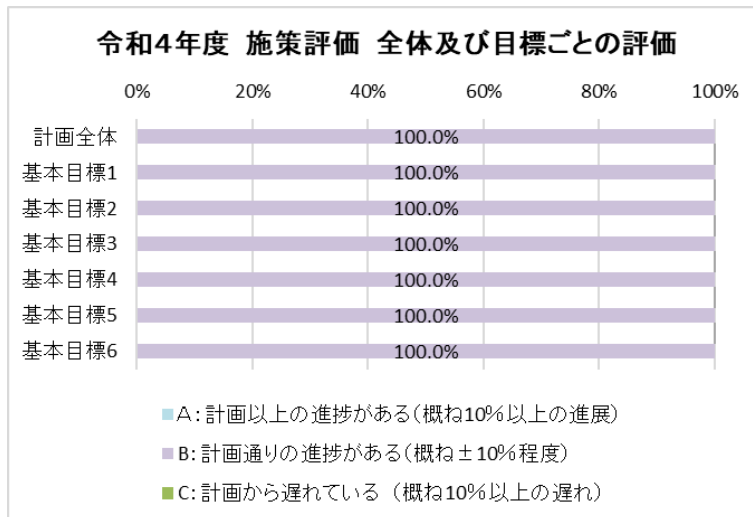
(1) 施策評価内訳

【令和4年度】

評価	計画全体	(基本目標ごとの内訳)					
		基本目標1	基本目標2	基本目標3	基本目標4	基本目標5	基本目標6
A: 計画以上の進捗がある(概ね10%以上の進展)	0	0	0	0	0	0	0
B: 計画通りの進捗がある(概ね±10%程度)	42	5	10	5	3	9	10
C: 計画から遅れている(概ね10%以上の遅れ)	0	0	0	0	0	0	0
合計	42	5	10	5	3	9	10

【令和3年度】

評価	計画全体	(基本目標ごとの内訳)					
		政策目標1	政策目標2	政策目標3	政策目標4	政策目標5	政策目標6
A(計画通り)	30	5	8	3	2	6	6
B(概ね計画通り)	12	0	2	2	1	3	4
C(やや遅れている)	0	0	0	0	0	0	0
D(遅れている)	0	0	0	0	0	0	0
合計	42	5	10	5	3	9	10



(※%表記は、小数点以下第2位を四捨五入しており、合計が100%にならないことがあります。)

施策評価については、42の項目すべてが「B: 計画通りの進捗がある(概ね±10%程度)」となりました。昨年度についても42の施策はA「計画通り」とB「概ね計画通り」で構成されており、おおむね同程度の評価となっています。今後も歩みを止めることなく、基本目標の実現に向けて着実な事業展開を行ってまいります。

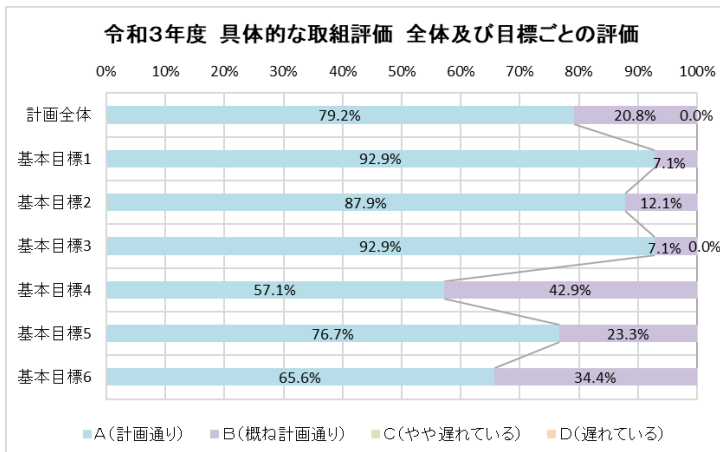
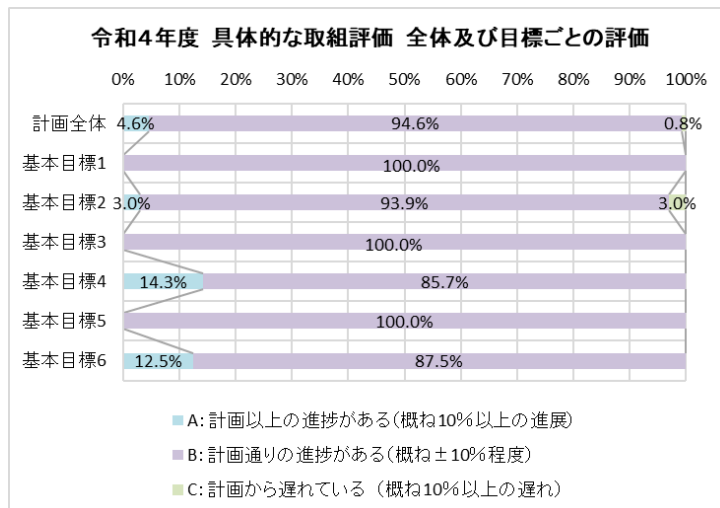
(2) 具体的な取組評価内訳

【令和4年度】

評価	計画全体	(基本目標ごとの内訳)					
		基本目標1	基本目標2	基本目標3	基本目標4	基本目標5	基本目標6
A:計画以上の進捗がある(概ね10%以上の進展)	6	0	1	0	1	0	4
B:計画通りの進捗がある(概ね±10%程度)	123	14	31	14	6	30	28
C:計画から遅れている(概ね10%以上の遅れ)	1	0	1	0	0	0	0
合計	130	14	33	14	7	30	32

【令和3年度】

評価	計画全体	(基本目標ごとの内訳)					
		基本目標1	基本目標2	基本目標3	基本目標4	基本目標5	基本目標6
A(計画通り)	103	13	29	13	4	23	21
B(概ね計画通り)	27	1	4	1	3	7	11
C(やや遅れている)	0	0	0	0	0	0	0
D(遅れている)	0	0	0	0	0	0	0
合計	130	14	33	14	7	30	32

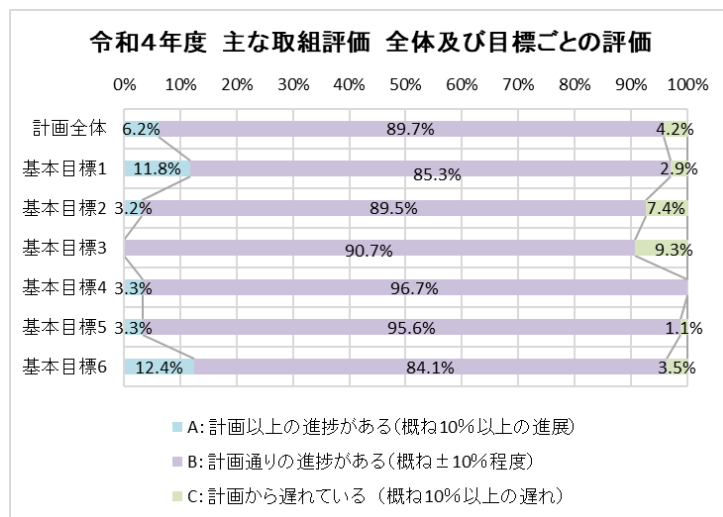


具体的な取組の評価については、130項目のうち、
 全体の4.6%、6の項目が「A:計画以上の進捗がある(概ね10%以上の進展)」
 全体の94.6%、123の項目が「B:計画通りの進捗がある(概ね±10%程度)」
 全体の0.8%、1の項目が「C:計画から遅れている(概ね10%以上の遅れ)」
 という結果でした。

(3) 主な取組評価内訳（今年度より初めて評価しているため、R3の結果はなし。）

【令和4年度】

評価	計画全体	(基本目標ごとの内訳)					
		基本目標1	基本目標2	基本目標3	基本目標4	基本目標5	基本目標6
A: 計画以上の進捗がある(概ね10%以上の進展)	25	4	3	0	1	3	14
B: 計画通りの進捗がある(概ね±10%程度)	364	29	85	39	29	87	95
C: 計画から遅れている(概ね10%以上の遅れ)	17	1	7	4	0	1	4
合計	406	34	95	43	30	91	113



主な取組の評価については、406 項目のうち、
 全体の 6.2%、25 の項目が「A: 計画以上の進捗がある(概ね 10%以上の進展)」
 全体の 89.7%、364 の項目が「B: 計画通りの進捗がある(概ね±10%程度)」
 全体の 4.2%、17 の項目が「C: 計画から遅れている(概ね 10%以上の遅れ)」
 という結果でした。

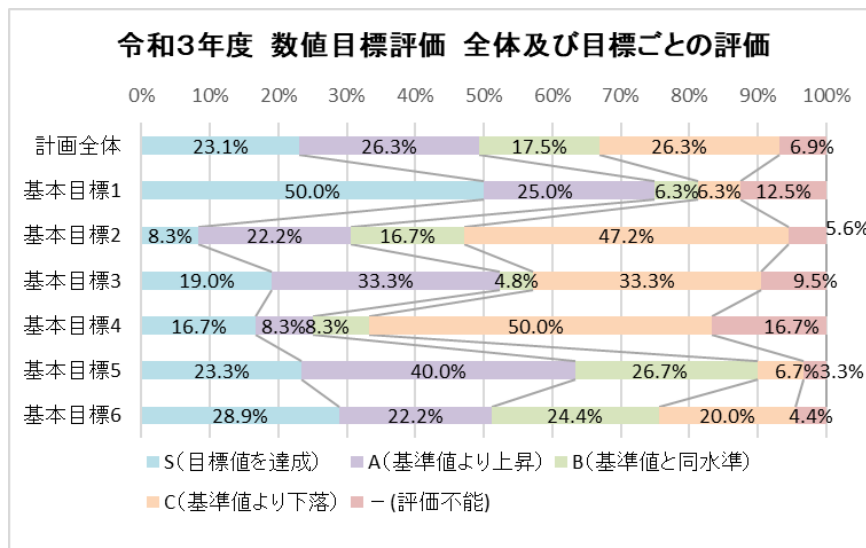
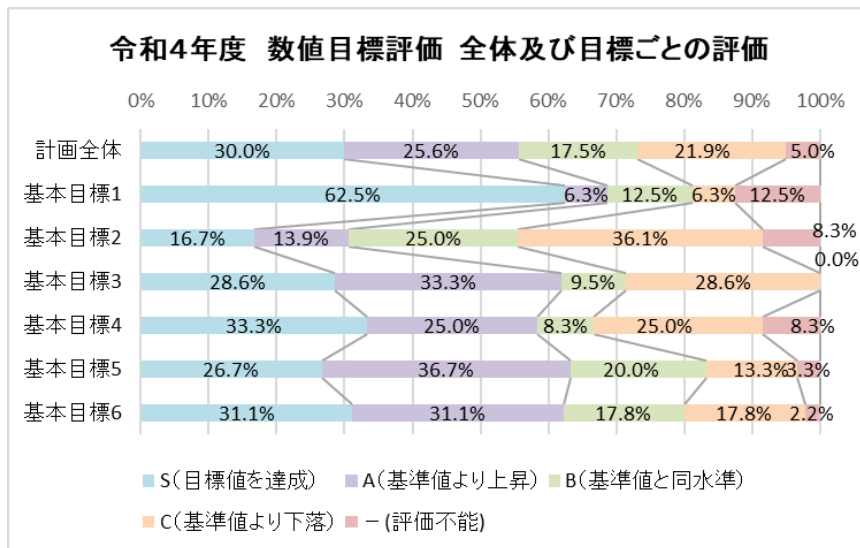
(4) 数値目標評価内訳

【令和4年度】

評価	計画全体	(基本目標ごとの内訳)					
		基本目標1	基本目標2	基本目標3	基本目標4	基本目標5	基本目標6
S(目標値を達成)	48	10	6	6	4	8	14
A(基準値より上昇)	41	1	5	7	3	11	14
B(基準値と同水準)	28	2	9	2	1	6	8
C(基準値より下落)	35	1	13	6	3	4	8
-(評価不能)	8	2	3	0	1	1	1
合計	160	16	36	21	12	30	45

【令和3年度】

評価	計画全体	(基本目標ごとの内訳)					
		基本目標1	基本目標2	基本目標3	基本目標4	基本目標5	基本目標6
S(目標値を達成)	37	8	3	4	2	7	13
A(基準値より上昇)	42	4	8	7	1	12	10
B(基準値と同水準)	28	1	6	1	1	8	11
C(基準値より下落)	42	1	17	7	6	2	9
-(評価不能)	11	2	2	2	2	1	2
合計	160	16	36	21	12	30	45



数値目標評価については、160 の項目のうち、
全体の 30.0%、48 の項目が「目標値を達成 (S 評価)」、
全体の 25.6%、41 の項目が「基準値より上昇 (A 評価)」となっており、
約半数の項目において、事業が順調に進んでいます。
一方で、
全体の 17.5%、28 の項目が「基準値と同水準 (B 評価)」、
全体の 21.9%、35 の項目が「基準値より下落 (C 評価)」となりました。

全体として前年度と比較してみると、「目標値を達成した (S 評価)」が 11 項目増加し、「基準値より上昇した (A 評価)」が 1 項目減少、「基準値と同水準 (B 評価)」が同数、「基準値より下落 (C 評価)」が 7 項目減少しています。また、評価不能だった 3 項目について数値が判明しました。

また、数値目標の進捗について個別に見た場合には、評価が下降した項目は 14 項目であったのに対し、上昇した項目は 32 項目 (評価が判明した項目含む) と、好転した数値目標が悪化した数値目標数を上回っています。施策評価などと同様に、事業進捗が順調に進んでいることが数値として表れているものと考えられます。

一方で、令和 3 年度から引き続き「基準値より下落 (C 評価)」のままである項目が 28 項目あり、その多くがイベント、施設来客数関連となっています。主な原因は新型コロナウイルス感染症対策によるものであるものの、これらの数値が改善していくようより良い手段を模索し、目標値の達成に向け各課対策を講じていく必要があります。